こんいとおどしてつさびじおけがわごまいどうぐそく
紺糸威鉄錆地桶側五枚胴具足

兜に「明珍信家」、袖に「増田明珍」、「紀宗正」、「大隈守」の銘があり、明珍派の甲冑師が仕立てたことがわかる。

本甲冑の形状が、鎧櫃（よろいびつ）とともに伝わった文書「具足目録」、「具足仕立注文」に記述される甲冑の形状と一致することから、宝暦三年（1753）に大野藩の軍学指南役を務めた中村志津摩（しづま）が注文し、その頃に仕立てられたものと考えられる。

前立（まえだて）や吹き返しなど、各所に見られる「丸に三つ柏紋」は中村家の家紋とも一致する。

同様に伝わった文書「おぼえ」（年不詳）より、平野家が一両で中村家より購入したことがわかるが、その経緯は不明。

